

## 令和7年度 第一回山梨県文学館協議会会議録

開催日時： 令和7年10月30日(木)13:30～15:00

場 所： 山梨県立文学館研修室

出席者： 委員：長谷川千秋、小石川正文、駒沢克昭、須藤令子、高山珠逢、  
鶴田久美子、仲田道弘、西田遙、伏見彩、堀口美千代、山本久美子  
事務局：(文学館) 三枝館長、和光副館長、天野次長、保坂学芸幹、  
中野学芸課長、市川資料情報課長、  
内藤教育普及担当リーダー、小林資料情報課リーダー  
高室学芸担当指導主幹、  
(指定管理者) SPS やまなし 支配人、マネージャー  
県観光文化・スポーツ部文化振興・文化財課：田原総括課長補佐、早川主任

### 次 第

・開 会

・館長あいさつ

・議 事

審議事項 会長の選任について

山梨県附属機関の設置に関する条例の規定に基づき、委員の互選により、  
長谷川千秋委員が会長に選任された。

また、会長から、職務代理者として小石川正文委員の指名があった。

報告事項 1) 文学館の事業について

2) その他

・閉 会

### 会議録

○事務局から報告事項について説明

会 長       ご説明ありがとうございました。只今の事務局の説明について、ご意見ご質問  
等がございますでしょうか。

委 員       先ほど自己紹介のときに申し上げれば良かったのですが、本日出張がありま  
して、大変申し訳ありませんが中座させていただきます。今、内容をいろいろご  
説明いただいて、とてもたくさんの方の多岐にわたる活動をされていることを改め  
て感じまして、非常に驚くとともに感心いたしました。私が個人的に感じたのは、

今、指定管理者から説明がありましたが、文学館・美術館、芸術の森公園に少しでも人を集めようという試みをたくさんされてきていらっしゃると思うんですけども、それと同時にラザウォークでのイベント開催など会場を外に移して、今まで来たことがなかった人に文学館がこんな取組をしているということを知らしめることで、新たな集客に繋がるのかなということを改めて感じました。そういった活動をやはり県立図書館ですとか、他の商業施設ですとか、そういった方も上手く利用していただきながら、また私もやま読（やまなし読書活動促進事業）の実行委員長をしておりますので、上手く使っていただいて、外にもどんどん情報発信の場を広げていただけるといいのかなと感じました。

本日は途中で大変恐縮ですが、これで失礼させていただきます。

会 長        ありがとうございます。今のことについて何か事務局からは大丈夫ですか。ほかにご意見がある方いらっしゃいますか？

委 員        先ほどの報告の最後の方にですね、落語ぶんがく亭の集客がだいぶ好調だと伺ったんですけども、実は当社も昨年1回目となるアナウンサーたちによるクリスマス朗読会がありまして、今年も12月13日土曜日を予定していますが、絵本の読み聞かせなどのイベントを行いました。このようなイベントをいろいろ開催することで、今まで文学館に足を運んだことがなかった層も足を運ぶきっかけになるというふうに思います。できましたらそのクリスマス朗読会による絵本の読み聞かせのイベントのときには、お子さんも多いと思うので、その人たちの目に触れるような展示みたいなものを合わせたりすると、いいんじゃないかなと思います。

事務局        ありがとうございます。今年も開催させていただけますので、今準備を進めております。昨年と今年も同じように行う予定ですけども、基本的にイベントと、こちらのすぐ隣にある旧カフェがあったところですね、こちらをミニマーケットという形で、2つのイベントを一緒に開催して集客を図っていくというところで予定をしております。こちらは主催者に本当にご協力いただきまして、非常に大きなイベントとして開催することができておりますけれども、私どもとしては、まずこの講堂で音楽イベントができるというところを多くの方に知っていただくというのが目的としてあります。

それと、お子様のうちから来ていただける機会を作ることで、それが子どもたちの原体験となって、長くこの文学館を使っていただけるきっかけ作りになるといいなとも感じておりまして、親子で来ていただけるというところで、気軽に来ていただける機会としてゼロイチをここで達成していくというところも目指

しながら、今回も主催者にご協力いただきまして開催を目指しております。

引き続き頑張って多くのお客さんを集めていきたいと思っておりますので、ぜひご協力よろしくお願ひします。

会 長        ありがとうございます。小さな子どもたちに働きかけて、親子で来館していただくという試みということです。

委 員        ご説明ありがとうございます。令和 6 年度の実績のところ、金子兜太展の来館者数がちょっと伸び悩んだというところで、先ほども説明がありました。山梨の俳句王国で金子兜太展の開催は 35 周年記念にふさわしい企画と思ったんですけれども、そこが集客に結び付かなかったということがとても残念で、館長も最初におっしゃったんですが、やはり文学への関心というものがいろいろ変わってきている部分もあるのかなと思っております。ふしぎ駄菓子屋銭天堂のときと金子兜太展を比較すると、全然内容が違うので比べるのも難しいと思うのですが、やはり親子で楽しめるものを企画するということが集客の点では非常に大事かなと思ったりします。県立文学館の重みだったり歴史を考えると、やはり金子兜太展のような展示も必要でしょうし、そこら辺の塩梅というか、集客の方法が難しいところだなと思ってます。ちょっとどうしたらいいかというのは私もわかりませんが、バランスよくその年々で、企画を考えていただけたらなと思っております。課題を先ほどおっしゃっていただきましたので、その部分を改善されていただきたいなと思ひます。

新収蔵品展は「直筆を楽しむ」のようなタイトルがいつも付いているわけではないということでしょうか。いつもは新収蔵品展だけだったのでしょうか。その「直筆を楽しむ」という、わかりやすいテーマを決めたことで集客が多かったということでしたら、何かそういうテーマを決めていただいてアピールするのもいいのかなと思ひました。

事務局        今、委員が言ってくださいました新収蔵品展については、令和 6 年度には「直筆を楽しむ」という副題が付けられておりました。新収蔵品展だけですと非常に漠然としていてわかりづらいので、作家の名前を具体的に羅列しまして、その中から非常に著名な文学者、芥川龍之介ですとか飯田蛇笏ですとか、そういった方の資料が出るよということが伝えられるように、作家名を入れたりする場合もございました。副題のような形のものはないより付いた方が、やはり来ていただきやすいという点があると思うので、何かしらインパクトがある、内容がわかりやすい、伝わりやすいようなフレーズを考えるようにしております。

委員 SNS についてですが、インスタグラムをされているということで見ていたんですけれども、こちらはターゲットとしたらどんなところを想定していますでしょうか。

事務局 ターゲットとしましては、やはりどちらかといえば、若年層といったところになるかと思います。アンケートの結果、文学館の来館者は、年齢層が高いです。この文学館も美術館も同じ傾向で、どこの文学館・美術館でもおそらく比較的同じ傾向になるかと思うのですが、60代66歳以上が中心となっております、極端に言いますと50代でもどちらかというところになります。私たちがやっているのはインスタグラムなんですけれども、今、50代ぐらいの方でも普通にインスタをされていますので、若年層というと本当に20代30代みたいなイメージになるのですが、もちろんその辺りもターゲットになりますけれども、そういった意味では一般的にいう若年層より少し幅が広いところを狙いつつ、いかに効果的な発信ができるか、動画を取り入れてみたりとか、といったところを検討しています。

委員 そうするとですね、アンケートを見ますと、インスタグラムからの集客が6人ということなので、ここを頑張ればもっと伸ばせるかなと思います。インスタの方を見ますと、ちょっとかたいところも否めないかなと思ってまして、美術館のキャラクターで見ていたらミレーさんというキャラクターがいたんですけど、このキャラクターが諸々を紹介するとか、そこで週末の楽しみ方3選みたいなこととか、もう少し明確にターゲット層をイメージできるような、作品とかの解説というよりは、ここに来てもらうためのインスタの発信ぐらいに振り切ってもいいかなと思いました。また、あとは館内で画像の加工とかも含めて運用していけるのがベストではあるんですけども、そういうのが厳しい場合でしたら、この芸術の森をフックにするとおっしゃっていましたが、非常にフックになるかなと思っているので、そこをフックにした投稿、訪れてもらって、それを発信してもらうをお願いするという形がいいかなと思います。山梨県専門のインフルエンサーMomokaさんなどは、週末に行くイベント企画ならこれ！みたいな発信とかもしているので、そういった方に依頼をして、定期的に取り上げてもらう、企画展のたびに上げてもらうとか、今、季節がいいのでそういった時期になったら上げてもらうとかを、積極的にやっていくと、今もせっかく4,500人ぐらいフォロワーがいるので、ここをさらに倍ぐらいにはすぐできるかなと思いますので、是非やってみていただきたいなと思いました。

事務局 非常に貴重なご意見いただきまして、本当にありがとうございます。文章がか

たいということなので、そこはすぐに考えていきたいと思います。さらに、インフルエンサーというお話も頂きましたけれど、我々も過去に検討したことがあって、ただちょっと取り組めてはいないんですけれども、私どもの本社の方にも入ってもらって、どういった発信が本当に効果的なのかという点を検証しながら進めているところです。インフルエンサーという話もその中から出てきてまして、今後ちょっと取り組めるかどうかというところもまだ検討中ではあるんですが、前向きに考えていきたいと思います。ありがとうございました。

会 長        ありがとうございます。各委員から来館者数を増やす、その取組についてご意見を頂きました。

              関連してでもいいですし、別の切り口からでもいいのですが、ご意見ありましたらお願いします。

委 員        ご説明ありがとうございました。山梨県立文学館が様々な展示や企画をされていることを今初めて知って、学生の立場からこのような企画や展示があったら楽しいかなという提案をさせていただいてもよろしいでしょうか。

              1つ目は、先ほどのきっかけを作るという視点から、山梨県立文学館で展示されている偉人の言葉だけを展示する部屋があったらどうでしょうか。例えば、1つの部屋で偉人の言葉を至るところに展示して、天井からぶら下げてみたりだとか、言葉だけを展示することで、来場者一人ひとりが純粋な言葉と向き合えて、その言葉との出会いの中で、自分だったら自己を見つめるきっかけにもなるのではないだろうかということで、私たち若者はSNSを日頃見ることが多く、その中で省略言葉だったり、若者言葉だったりだとか、言葉に対しての立場が違ってきているので、その中でたまに素敵な言葉に会うと、はっとさせられることが私自身多いなということもあり、言葉に出会うきっかけが自分を見つめることにもなるかなと思って、このような展示はどうでしょうかということと、またさらに来場者の言葉、例えば来場者の方々に何か言葉を書いていただいて、その言葉をまた展示することで、来場者同士の繋がりもできるのではないだろうかということを考えました。

              2つ目の提案は、源氏物語の企画も様々されているということで、源氏物語に特徴的なのが様々なアートが登場することだと思うんですけど、私が面白いなと思ったのが、和歌の贈り方というのが、とても粋であるということです。和歌を作って贈るのにもいろいろな色や素材から紙を選んで、そこにまた様々な筆圧で言葉を書いたりだとか、そこに花を添えたり、お香をたきしめたりということが、とても面白いなと思っています。そこで、来場者の方々が、自分で歌を作って、それを作るだけでなく、それも同じようにいろいろな色や素材から紙を

選んで、自分で筆で書いて、その歌を1つの作品みたいに自分自身で持っているような、そういったワークショップじゃないですけど、そういう企画を、来場者が自分自身も体験できて、それを作品としておうちに持って行けるみたいな、そういった企画もあったら楽しいかなというふうに思って提案させていただきました。

事務局 貴重なご意見をありがとうございます。文学館の場合、作家やあるいは作品などをテーマに展示をするというふうな頭でどうしてもいってしまうんですが、今、おっしゃっていただいたように、学芸員などが出会えた素敵な言葉を展示してみて、言葉と向き合う空間にするという発想は展示の中ではなかったものですから、ぜひ考えてみたいと思います。作品などを展示をするときに、作品の一部を引用文として羅列したりして、ここは読んでほしいというところを挙げることはあるんですが、それはむしろ経験的な意味で、ここは大事なところだとか、展示のポイントとして出すことが多くて、言葉そのものと向き合うような形で引用文を掲げているかということ、そういったところがないので、今おっしゃっていただいたような視点で展示をすることも考えられるかなと思って、新鮮なご意見として伺わせていただきました。

2つ目の源氏物語で和歌をやり取り、贈るときにお花を添えたり、お香を焚いたりして、いろいろな紙から選んで贈るというところは、まさに書かれていることだけではなくて、文学の周りにあるメディアとしてのいろいろな贈り方や書かれている物の素材や書くものの材質といったところまで目配りをするすることで、文学というものに広がりが出るものだなというふうに思って聞いていましたので、またそういったところもワークショップなどのイベントで何かできるのかなというふうに思って聞いておりました。本当に貴重なご意見ありがとうございます。

会長 ありがとうございます。若い方の視点で新鮮な提案だったと思います。

委員 資料の10ページの新収蔵品展の達成率の高さ、入館者率の多さを見て、やはり何を見せてくるんだろうという期待感が足を運ばせてくれているのかなというところを感じたところです。

そして、以前高等学校に勤務した立場から申し上げますと、出前講座とかアウトリーチをやっていただいて、本当に助かっているところがございます。とりわけ、今、私の自宅は河口湖で、近くの学校の学校委員協議会に末席を置いているんですが、その高等学校では1年生の5月に、学芸員に来ていただくということをしていまして、そして学芸員に出前講座をお願いして、その翌6月には生徒た

ちが文学館に足を運ぶ、そして理解を深めるという形で機能しているということを経験から伺っておりまして、だいたい定着しているということが、とりわけ郡内の高校にしてみたらものすごく助かるわけなんですね。そして今日も掲載のあった毎週木曜日の「山梨日日新聞」こびっとの「山梨探検」ですが、私の手元には、学芸員が書かれた9月25日の「八犬伝山梨も舞台に」がございまして、これはやはり小中学生は将来の大人ですから、そういった子どもたちに小さいときから文学に身近に触れ親しむという、こうした地道な積み重ねっていうのかな、すり込んでいくっていうか身近にハードル高くないんだよっていう、そういったアプローチっていうのかな、そういったことを引き続きですね、継続して行ってほしいななんて思っているところでございます。

会 長       ありがとうございます。学校などとの連携は大事なかなと思います。ほかにご意見はありますでしょうか。

委 員       先ほどの言葉を展示するというようなことは、この文学館でできると思いますので、素晴らしいアイデアだと思います。

私は、多分美術館の方で言ったと思うんですが、協議会資料が非常に見づらいということを使ったんですが、今回はデータも載せてあって何が課題であるのか、皆さんで議論できるような資料になっていまして、すごく見やすくなっていると思います。

その中で、先ほどちょっと職員と話をしたんですが、これから1ヶ月この南総里見八犬伝展を倍に伸ばさなきゃいけないので、ぜひこのPRをですね、多くの皆様方で、私どももしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。私ども観光からすると非常に分かりやすいということがありますが、南総里見八犬伝はドラゴンボールの原形ですよ。ある意味、そういうふうなことを言えるのであればSNSの中で言ったりしてPRをお願いします。仁義礼智忠信孝悌の8つの玉を集めるじゃないですか。そういうふうな形なもので、若い人に注目してもらえるようにしていただき、私たちも応援していけるところは応援していきますので、よろしくお願ひします。

それから前に館長にお願ひしたんですが、村上春樹の展示を、来年の冬あたりにやっていただければ、先ほどもインバウンドのお客さんなんて言いましたけれども、そういう方々に向けて誘客していけばそこそこの来館者があると思うんです。英語での展示はやらなきゃいけないと思うんですが、非常に注目されてですね、多くの人に是非来ていただければと思いますので、ご検討いただければありがたいです。よろしくお願ひします。

事務局 村上春樹のことは非常に大切なテーマで、実は早稲田大学に村上春樹ライブラリーがあって、そこがオープンしたときに私と学芸員の全員で見学に行きまして、そのときその館長をしていたのが私の友人でしたので、文学館と春樹ライブラリーでコラボをしましょうという話にはなったんですけども、ただね、あそこからどんなものを借りることができるかっていうね、それも難しいんです。けれども借りることができなくても、ちょっといろいろな形で工夫はすることができると。やはり村上春樹がいつもノーベル賞の候補にもなってますけれども、工夫をしてなんとかできる可能性があればしたいと私個人も思っています。

委員 私からは、文学館から遠い人にどうやって来てもらうかというところについて、ちょっと思ったことをお話させていただきたいなと思います。

2つあるんですけど、1つは私自身は文学館へ2、3回来たことがあると思うんですけど、来た理由として、ここでこういうことを言うのは非常に申し訳ないんですけど、県立美術館に行くつもりで、県立美術館に行って、多分一緒にチケットを買えるからついでに来たみたいなことがありました。なので、美術館と関連したりとか、同じ時代をテーマにするとか、コラボ企画があるとやっぱり来やすいなと思っています。

もう1つが資料の24ページのところの結果なんですけれど、上から2番目の、「琵琶と声明による西行花伝」の公演会が416人ということで、たぶん講堂がかなりいっぱいだったと思うんです。こちらの方はもう朗読というか音楽的な側面というのが意外と伸びしろというか、やりようがあるんじゃないかと思っています、オーディオブックとか、本を聴くようなものが結構普及してますし、昔の文学って文字で伝える部分もあったと思うんですけど、口伝で伝わるような部分もあるので。ただ、平家物語などは聴いて面白いように作られてると思うので、そういう声に出して読んだときのリズムとか、琵琶と一緒にとか、何かそういう方向で紹介をするというのは集客の方法として1つあるんじゃないかと思ひまして、お伝えさせていただきます。

事務局 ありがとうございます。1つ目の美術館とともに文学館に来ていただくお客様は本当に大勢いらして、少しでも関連があると美術館の方に表示を出していただいて、文学館でもこんな展示をしていますというようなことを、なるべく行うようにしています。今年の夏に「作家の絵ごころ」という展示をやりましたときに、先ほど説明の中にありました、ミレーの描いた「鷺鳥を追う少女」という絵の模写を夏目漱石がしてしまっていて、それを夏目漱石の絵を文学館で持っているの、これを出すタイミングで美術館のコレクション展の方にも、ミレーの

原画を出してもらって、文学館でも漱石のものが展示されていますという表示を出していただいたところです。美術館から文学館に、という人の流れをこれからも意識して集客に繋げたいと思います。

それから2点目は、「琵琶と声明による西行花伝」という催しだったのですが、和楽器、雅楽の演奏で、私どももこういった催しにお客様が集まったことに非常に驚いたところでございます。今、おっしゃっていただいたような、耳から聴く文学というのも、非常に文学館の集客、お客様を呼び込むきっかけにはなるかなというふうに思っていますので、今後も文学公演会という催しなどでも取り入れていきたいです。ちょうど今週末の11月1日に、南総里見八犬伝にちなんで講談のワークショップを予定しています。千葉から講談をやっている方をお呼びして実演をしていただくとともに、参加者の方にも講談を体験してもらおうという催しになっていますので、今後も読むだけではない文学作品というものを意識して、企画に取り入れていきたいと思いました。どうもありがとうございました。

会 長        様々な観点から読むということだけでなく、聴くというところからもぜひという提案でした。ほかにいかがでしょうか。

委 員        意見といいますか、感想になるんですけども、1ヶ月に一度売店でボランティアをしているんですが、こちらの文学館の企画展はすべて見させていただいてます。だいたい来るのが平日のお昼で、人もまばらなところで本当にゆっくりと見させていただいているんですけども、今日の会議に出席して、皆さんがいろいろな努力をなさって、いろいろなことを考えながらやってくださっているんだなということを、改めて感じて、本当に有難いなという気持ちでいっぱいです。お客様の中には他県から来る方もいらっちゃって、美術館のついでに来るとい方もいるんですけども、楽しみにして来ましたという方もいらっしゃるんですね。私は近所に住んでいて、協力会に入るまではここに来ることはほとんど無かったんですけども、協力会に参加させていただいて、1ヶ月に1回ここに来て展示を見ることが本当に楽しみになりました。ですので、やっぱり興味がある人、興味がない人の差は、きっかけなのかなというふうに感じています。ここへ来るきっかけがあれば、それが何かというのは私にはちょっとわからないんですけども、そのきっかけが欲しいななんていつも思っています。今日はありがとうございました。

会 長        ありがとうございました。きっかけを作るのは大事ですよ。

委員 私も意見というか感想を言わせていただきたいと思います。本当にたくさんのいろいろな構成ということ、今日しっかり聞かせていただきました。運営していく中で、いろいろなたくさんの方のことを、経費や収益の関係等も考えながら、運営もしていくというところでは、私どもの資料館も一緒です。無料で見学はしていただけていますが、館の運営の面でその状況がよくわかるばかりに、本当に皆さんご苦労されて、この素晴らしい企画をしているんだなあと感じました。私が勉強させていただくばかりだったなあと思います。それで1つ、企画とは関係ないかもしれないのですが、安全安心の施設の維持管理というところで、避難訓練を美術館と一緒に実施されていることが非常に素晴らしいことだと思いました。銀行店舗にいる頃は、訓練をさせていただいたことはありますが、頭の中でわかっている、いざとなると全く身体が動かないというのが実際のところだと思います。やはり、こういったイベントをするのは大変なことかも知れませんが、来館者に安心して避難していただくというところでは、とても必要なことではないかと思います。しっかりとスタッフの方が誘導する、自信を持って誘導ができるということが、正しいことだと思いますので、また次回こういったことがあればぜひ見学をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。避難訓練は、元々は一緒に合同でやるというのは、なかなかやってなかったようなのですが、私もこちらに来て3年目なんですけれども、今は美術館と文学館を合わせた全館合同ということで、大規模でやらせていただいております。いろいろなシチュエーションがあって、今年何をシチュエーションに持ってくるかみたいところは考えながらやっているんですけれども、どちらかという、いきなり火事が起きるというよりは、モバイルバッテリーの問題もありますが、やはり地震の方が大きかったりとか、まだそういう想定はしていないんですが、これからは富士山の噴火ですとか、そういったことも今後は考えながらやっていく必要があるのかなということも考えております。

会長 ありがとうございます。美術館と文学館、連携しての避難訓練は、やはり大事なことかなと、災害があったときはまずは来館者の誘導避難を第一にしなければいけないと思いますのでとても大事なことだと思って伺っておりました。

委員の皆様から、新鮮なご意見をいただいて、私自身もいろいろと気づかされることが多くありました。やはり来館者数を増やすであるとか、文学をいかに伝えていくかというところにご意見が集中したかなというふうに思っておりますけれども、文学をわかりやすく発信するときに、いかにかみ砕いて伝えていくかというのが1つあるのかなと思います。その際に、こちらの、伝える側の視点ではなくて、伝える“相手”の視点をやはり持っていただきたいなと思います。相手

がどういうことを欲し、どういう情報を欲しがっているかというところで、最終的には文学館を選んでもらえるかというようなことになるのかなと思います。

学校との関わりといったご意見が、委員から出てきていましたけれども、例えば学校の教材になるようなものを意識しながら、展覧会、あるいは展示物なんかも、こういうことを見に来ていただくと、教科書とこんなふうに結び付きますよ、というふうな伝え方をすると間違いなく学校の方ではしてくれるし、また展覧会に来てくださいというような関連性が出てくるというふうに思います。

またこの委員の中にも、マスコミの方、書店の方もいらっしゃるわけで、こういった方々にもご協力をいただくというようなことも、1つ発信としての方法はあるのかなと思います。

それから文学と言いますと、私なんかもそうですけど、作家の名前、作品の名前というのがまず思い浮かぶわけなんですけれども、文学から遠い方にとってみると、確かにその言葉を伝えても伝わらないわけですよね。ですので、先ほどいろいろなご意見が出ましたけれども、テーマという切り口でそれを伝えていく。作品名、作家名を隠すわけではないですけれども、そちらよりは和歌だったり言葉というようなところで、伝えていくというような在り方もあるのかなというふうに思います。

一方で、村上春樹のようなビッグネームであれば、ハルキストはたくさん世界中にいますから、人を集めることができるのかもしれないと思いました。

SNS の話も出てきたわけですが、文学館の周辺には本当に美しい庭、植物などがありまして、これをインスタグラムで写真に撮って、発信しつつその展示物、南総里見八犬伝の中の言葉、あるいは魅力みたいなものをちょっと伝えるなんというふうにすると、来館動機に繋がるのかなというふうなことを思いました。今すぐできそうなことを、ちょっと思いつきなんですけれども、考えてみました。本当にいつ来てもですね、この美しい庭園に癒やされていて、県外から友人などが来たときには必ず文学館に案内するなんていうこともしておりますので、またご検討いただければ幸いです。

最後簡単に私も意見を述べさせていただきましたけれども、皆様からのご意見ご質問等、出尽くしたかと思しますので次の議題に移っていきます。2番の「その他」ですが、何かございますでしょうか。よろしいですか。それでは「その他」は特にないようですので、以上で議事を終了いたします。

皆様、ご協力をありがとうございました。